



お待たせしましたダーリンです

秋雨前線の影響で、雨がぱらつく不安定な天気の日、9月8日(日)、第十八期秋のNIB王戦を執行し、ダーリン立川が悲願の初優勝を手にした。立川一家でただひとり、タイトルから取り残されていたダーリンだが、これにて面目躍如、一家の大黒柱としての地位も取り戻したに違いない。またこの日、立川家のアイドルゆなちゃんが大会に初参加、ゆなちゃんのデビューと自らの初優勝が重なり、ダーリンにはうれしい一日となった。

つぐみとの決定戦を乗り越え勢いに乗る

第十八回を迎えたNIB王戦の準決勝に進出したのは、ダーリン、岡ちゃん、ハルク、げんた、中台かずひろ、鉄人後藤、つぐみ、平井おやぢ、ルパン師岡の9名だ。この中から、ダーリン、岡ちゃん、ハルクが勝ち残り、決勝戦へと突入するのだが、ダーリンとつぐみは同点による決定戦に持ち込まれた。

ダーリンの鬼門は立川三姉妹だ。これまでもあと一步のところまで、娘たちに阻まれてきた。この日も準決勝でつぐみと同枠になり、しかも同点決戦となる不運。いやな予感がしたのではないだろうか。しかし、ありがたいことに、この決定戦でつぐみが床外しをしてくれたのだ。お陰でダーリンが難なく決勝に進出する。頂点に立つには運も味方にしなければならないんだね。

やられたらやり返す、倍返しだ！

奇しくも予選上位3名の対戦となった決勝戦は、岡ちゃんが3ポイント獲得で幕を開ける。しかし、ダーリンが5ポイントを上げリードすると、岡ちゃんが2ポイント取り返し同点とする。ここからハルクが6ポイント上げるが、同時にダーリンも5ポイント上げ、5ラウンド終了した時点で10対5対6となる。残りは3ラウンドだ。5点差以内なら一気に逆転の目が残るから、まだ三人に十分チャンスがあるが、迎えた第6ラウンドは三人同時のパッカンでその差は縮まらない。残るは2ラウンド、緊張が高まる。しかし、この最大の場面で何とダーリンがふたつ飛ばしの6ポイントを獲得、一発で勝負を決めた。やられる前にやり返す、倍返しだ。ほかの大会では何度も優勝してきたダーリン、なぜかここでは勝てなかったのだが、これでその呪縛からも解放された。ダーリンの時代はここからかも知れない。



ダーリン、かずひろ、つぐみ おめでとう！



ゆなちゃん惜しくも準決勝進出をのがす

立川家のアイドルゆなちゃんが4歳にして大会デビューを果たした。鉄人後藤、ジョージ、奥田パパを向こうにまわして17ポイントを獲得。さらに、とーさん成田、あいちゃん、岩坊、上浦パパを相手に9ポイントゲットし合計26ポイントで予選を終了、第9位の成績だった。惜しいことにルパンが同点だったため9人目を争い決定戦となったが、非情にもルパンが譲らず、準決勝進出はならなかった。それでも、床外はしないし、最後まであきらめずに戦うし、堂々たるデビュー戦でした。大会にまたひとつ花が咲いて、楽しくなりそうです。それにしても、ルパンは気の毒と言えれば気の毒な状況でした。お疲れさま～。

子ども王は中台かずひろ、女流王はつぐみ

中台小で寺子屋を始めたのは6月末、まだ3回しか活動していないのに、かずひろが子ども王をさらってしまった。ベ歴はまだ2ヶ月とちょっとだ。これはすごい。しかも予選の順位は5位だし、お父さんは先月決勝トーナメントに進出したし、この親子の上達ぶりは素晴らしい。世の中にはまだまだいくらでも逸材が眠っているんだなあ。

女流王は今回もつぐみだ。つぐみは出ると取るから、家の中は賞状とタイトルベラだらけになっているに違いない。総合優勝を5回もしているし、つぐみはもう女流の枠を超えた存在だね。これからは別格にして、女流王の範疇からはずしてもいいかもしれないね。



名人戦は鉄人後藤がトップを死守

名人戦は九月場所を終え、鉄人後藤がトップを維持している。しかし、これにスペシャルポイント（大会で決勝トーナメントに進出するごとに1ポイントを追加）を加えると、2位ギャオスとの差はわずかに1点だ。さらに、途中から欠席した人に対するポイントはアベレージで加算するので、最終順位はまだ分からない。ここに来てアベレージの高いダーリンが3位に、マックスが5位に猛追しているのも気になる。最終順位は来月の結果次第だが、いずれにしても1位通過で決勝シード権を得たい。最終場所は10月13日（日）、場所は電車の見える公園だ。

バロンドールはギャオスとルパンが同点

混沌としてきたバロンドール（年間最優秀選手賞）は、ギャオスが予選敗退でポイントが伸びず、ルパンが準決勝進出で2ポイント加え同点1位となった。3位には1ポイント差でハルクが浮上し、4位につぐみとマッチが並ぶ展開だ。トップとの差は3ポイント、いつでも追い抜ける位置につけている。僅差の中での争いなので、この先順位は目まぐるしく変動するだろう。

